

7 本時の学習

(1) 本時の目標

同じデータを基にした、1目盛りの表す大きさが異なる3つの棒グラフを比較し考える活動を通して、棒グラフの読み取り方や表し方の工夫を理解し、1目盛りの表す大きさの取り方も目的に応じて考えることができる。

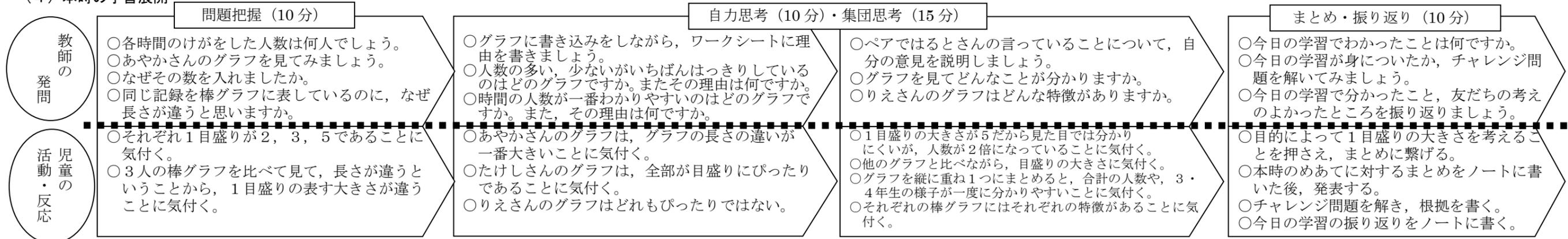
(2) 本時の評価規準

イ 1目盛りの表す大きさや棒の長さに着目して、グラフを比較し、表し方の工夫について考え、説明している。

(3) 本時で育成したい資質・能力

B 自分の考えを相手に分かりやすく伝え、相手と自分の意見の相違点や共通点に着目しながら考え、反応している。

(4) 本時の学習展開



2/4

めあて

問題

3人のグラフのとくちょうを見つけ、せつ明しよう。

3人のかいたぼうグラフをくらべましょう。

集団思考

けがをした時間と人数(4年生)

時間	人数(人)
休み時間	18
放か後	12
じゅ業中	6
そうじ時間	3
合計	39

見目がちがう。

1めもりの大きさがちがう。

けがをした時間と人数(あやか)

けがをした時間と人数(たけし)

けがをした時間と人数(りえ)

けがをした時間と人数(3年生)

時間	人数(人)
休み時間	13
放か後	9
じゅ業中	5
そうじ時間	3
合計	30

3年生と4年生で人数の多いじゅん番は同じ。

まとめ

何を表したいかによって、1めもりの大きさをかえるといい。

チャレンジ

○3つのグラフで人数の多い、少ないがいちばんはっきりしているのはどのグラフですか。

⑤のグラフ

- ・3つのグラフの中で1めもりの大きさが一番小さいから
- ・ぼうグラフの長さのちがいが、一番大きいから。

ふり返り

- ・表したいことによって1めもりの大きさをかえる。
- ・1めもりの表す大きさを見て考えることが大切。

○指導・支援

○表の値を隠し数字を予想させながら提示していくことで、出てくる数字に着目させる。

○はじめにあやかさんのグラフの目盛りを隠して提示することで、目盛りの表す大きさに着目させる。

○棒の長さが違う理由を考えさせることで、1目盛りが表す人数がちがうことに気付かせる。

○棒グラフに書き込みをさせることで、根拠を持って自分の考えを伝えられるようにする。また、児童の発言を黒板の棒グラフに書き込みをすることで、棒グラフの見えポイントを押さえる。

○考え方が思いつかない児童には、棒グラフの長さや1目盛りの人数について再度押さえ、ちがいに気付きやすくさせる。

○分かりやすい、分かりにくい、正しい、正しくないは感覚によって違うため、発言に対しての理由がきちんとしていれば認める。

○1目盛りの表す大きさや棒の長さに着目して、グラフを比較し、表し方の工夫について考え、説明させる。

○りえさんのグラフは、1目盛りの表す人数が多いため、棒の長さの違いが小さく見えることに気付かせる。

イ 1目盛りの表す大きさや棒の長さに着目して、グラフを比較し、表し方の工夫について考え、説明している。(発言、ワークシート)

○3, 4年生の様子が一度に捉えられたり、1つのグラフで比較できたりするりえさんのグラフのよさを価値づける。

○どの棒グラフにもそれぞれの特徴があり、目的に応じて表し方を選択すればよいことに気付かせる。

B 自分の考えを相手に分かりやすく伝え、相手と自分の意見の相違点や共通点に着目しながら考え、反応している。(発言)(ノート)

○キーワードを基に、本時のめあてに対するまとめを考えさせる。

○3問程度チャレンジ問題を解かせ、本時の学習が理解できているか自分で確認できるようにする。

○振り返りの視点を示して学習感想を書かせ、本時の学習で何が分かったか、どのように考えたかを自分で振り返られるようにする。